

### アーカイブビジネスとは

従来、紙や物理的な媒体によって保管されてきた文書や画像など（総称して「コンテンツ」）をデジタルデータに変換して保管することで、コンテンツの長期保管ができると同時に検索性が向上する。このデジタルデータを数百Gバイトから数T（テラ）バイト（1TB＝1000Gバイト）の大容量の記憶装置（ハードディスクやCDチェンジャーなど）を使って保管するビジネスのことをアーカイブビジネスという。

### アーカイブビジネスのタイプ

アーカイブビジネスには大きく分けると2つのタイプがある。1つは、デジタルデータは劣化しないという特徴を活かして、歴史的な価値のあるものや著名な芸術作品を長期保存することを目的にしたもの。たとえば「京都デジタルアーカイブ」<sup>Jump01</sup>は、京都の豊かな歴史・文化・伝統資産をデジタル化することにより次世代に継承し、著作権などの知的所有権を円滑に処理できる環境の整備を目指して設立された。また、全国各地の図書館でも重要文化資料をデジタル化して保管することで地域振興や教育機関への提供に役立っている。

もう1つはデジタルデータの検索性を活かして、アーカイブされたデジタルデータの中から瞬時に任意のものを抽出し、場合によってはそれを配信するビジネスである。たとえば「デジタルアーカイブ・ジャパン」<sup>Jump02</sup>では、写真やCG、イラストなどのコンテンツをデザイナー向けにインターネットで販売している。膨大なコンテンツの中からキーワード検索することで、任意のものを探すことができるようになっていて、好みの写真が見つければダウンロードできる。

### アーカイブビジネス成功の鍵

このようなアーカイブビジネスが出現してきている背景には、昨今のインターネットの普及のほかに、記憶装置であるハードディスクの性能の向上と低価格化が挙げられる。RAIDという技術によって、ハードディスクの一部が障害をおこしてもシステムを稼働させながら復旧作業が可能となり、価格は1Gバイトで1万円を切るようになった。こうしてインターネットに接続された大容量ハードディスクのサーバーは、いつでもコンテンツを入手できる巨大な倉庫として機能するようになったのである。

しかしアーカイブビジネスを成功させる上で重要なのは、そういったハード面の充実もさることながら、次に挙げる3つのポイントだ。

①**アーカイブビジネス対象のコンテンツ**  
アーカイブビジネスは、運用面だけを見るとコストのかからないビジネスのように思えるが、アーカイブを構築するまでのデータの取り込みは非常にコストがかかる。アナログ文書やイメージをスキャンしてデジタル化し、そのデータを補正するコストは、高品質のものになると1枚当たり1000円以上かかる場合がある。利用価値、商品価値の高いコンテンツを対象にアーカイブに取り込んでいかなければデータ化の資金回収が困難になる。アーカイブビジネスはコンテンツ量が膨大な上、イメージ情報が多いので、一般的なインターネット上のコンテンツビジネス以上に制作原価がかかる。アーカイブ対象とするコンテンツの選択は慎重に行うべきだ。

#### ②著作権の問題と利用制限

データ化するコンテンツは、コピーや不正利用の容易なデジタルデータだ。便利なサービスを提供するためには、利用上の制約事項というのは極力排除すべきな

のだが、コンテンツを適切に利用してもらわなければ著作権や肖像権の侵害、損害賠償といった問題に発展しかねない。最近では、「エム研」<sup>Jump03</sup>の電子透かしのようにコンテンツの不正利用を防止する技術が出てきているものの、すべての不正を防止することはできない。データをユーザーに配信する際には、著作権の帰属先や利用制限を十分に理解してもらう必要がある。

#### ③課金のタイミングとその徴収方法

アーカイブビジネスの場合、デジタル化されたデータが課金対象になるので、課金のタイミングとその代金の徴収が重要になってくる。課金方法には、年会費のようなものを徴収する定額制課金とコンテンツ単位の従量制課金、定額制課金と従量制課金の融合された課金が考えられる。定額制課金の場合には、アーカイブへのアクセスを許可するための期限付きのユーザーIDとパスワードのようなものを発行することで実現できる。従量制課金の場合には、クレジットカード決済が一般的になってきているが、クレジットカード番号をインターネット取引に使うことに対する抵抗感と、50円、100円といったマイクロペイメント（小額決済）への対応の問題がある。当面は従量制課金が課題といえるだろう。

（山田仁 デジタルアーカイブ・ジャパン株式会社代表取締役社長）

<sup>Jump01</sup> <http://www.kyo.or.jp/archives/>

<sup>Jump02</sup> <http://www.daj.ne.jp>

<sup>Jump03</sup> <http://www.mkcn.co.jp>



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)